

低用量・高用量吸入ステロイド薬 (ICS) とロイコトリエン受容体拮抗薬 (LTRA) による咳喘息の短期治療効果

赤穂市民病院呼吸器科 山口将史

京都大学医学部呼吸器内科 新実彰男、松本久子、伊藤功朗、大塚浩二郎、小熊毅、竹田知史、中治仁志、井上英樹、田尻智子、岩田敏之、三嶋理晃

【背景】咳喘息治療ではICSが第一選択薬とされる。LTRA単剤の有効性も知られるが、両者を比較した研究はない。ICSの典型的喘息への移行抑制効果が後ろ向き研究で示されているが、前向き研究やLTRAでの検討はない。

【対象と方法】抗炎症薬未使用の非喫煙咳喘息65例を低用量 (400 μ g/日, LB) 及び高用量 (1200 μ g /日, HB) ブデソニドとモンテルカスト (10mg/日, MK) 投与群に割り付け、12週治療した。治療前と12週後に咳スコア (VAS), spirometry, IOS, 咳感受性、気道過敏性、呼気NO濃度を評価し、その後1年間追跡した。

【結果】咳VASは全治療群、咳感受性とIOSのX5, AXはMKでのみ有意に改善した。呼気NOはHBとMKで有意に改善し、改善度はLBに比しHBで有意に高かった。喘鳴出現例は各群2例ずつで、その頻度に群間差はなかったが、症状再燃率はMKに比しLB+HBで有意に低かった。

【結論】咳喘息におけるLTRAの短期的な有効性が示された。喘息移行への影響を含めた長期効果、長期投与の有効性については更に検討を要する。